

6
月
号

いっしん

神土地に
稲植えつけて
信心の
肥とすれば
徳とはなる
安武松太郎
御歌

第317号

平成23年(2011年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県姶良市加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki>

いよいよ

加治木教会 布教六十年記念大祭

平成23年 5月 29日(日)



H23. 4/3
御本部
御大祭参拝



4/3 御本部
御大祭参拝
(お届け)



4/25 甘木親教会
御大祭参拝



5/22
記念祭前
御用



5/21
バンド練習



5/6 記念祭奉迎信行



5/11
炊事場
食器棚
片付け御用



5/25
看板上げ
御用

5/29 布教60年記念大祭



年記念大祭に
ついては次号
に掲載します。

いよいよ記念大祭 …………… P1
政美大人著『安武松太郎大人』…P2~3

感話発表/瀬尾 田鶴子氏 …P4~10
教会行事 …P8

私
いたたくの安武松太郎師

『私
いたたくの安武松太郎師』

を読ませて
いただくにあたり

加治木教会の前教会長でありま
す、故矢野政美先生が「恩師のご
信心の一端」として昭和五十六年に
発行されました。(このたび再版)

この本の中には、甘木教会初代教
会長 安武松太郎先生のご信心の一
端が記されていますが、今の私自身
がどれほどのが読み取れている
か言葉にするのものはなはだおこがま
しいほどであります。

しかし、あえて「むずかしくて読
みにくい」と思われる若い方々のた
めに、甘木親教会 初代親先生のご信
心を頂く手がかり足がかりとなるこ
とを祈って説明しておくものです。

この本の重要なポイントとなる
ところは、矢野クラ刀自(とじ)矢野政大



昭和五十六年発行分

れたとき、安武松太郎先生がみ教え
された内容です。

入信してから、これまでは一身一
家の上におかげを受けたという願
いで信心をしてこられました。世の
中では、ごくあたり前な信心の動機
といえます。

しかし、このときに安武松太郎親
先生から伝えられたことは「一身一
家の上におかげを受けた」という
一心はほんとうの一心ではないとい
うことです。

ほんとうの一心とは「生まれる力
も、生きる力もない者が、生かされ
恵まれ続けてきた天地の親神様のご
恩」を知って、そのご恩に報いさせ
ていただきたいと思う心であると教

人のお母様
が三十三才
のとき、腎
臓病のご大
患で体のむ
くみが激し
く医師もさ
じを投げる
ようになら

えられてあります。
そこで、徳川家康の重臣、本多平
八郎の話をされて「死にとつない
死にとつない ご恩を受けし君を思
えば」とうたった辞世の句をとりあ
げて、報い方を教えられています。
いわば最も美しい、みことな一心
です。

「自己中心的」でなく、それも「ご
恩返し」の、昔でいう「忠」「信」「孝」
という、最も尊い生き方と称えられ
る利他であります。

「忠」「信」「孝」ということばは今
では古くさい気がします。しかし、
海外の映画では、このところ「忠臣
蔵」(主君の忠義に命をかけて報いた
武士たちの物語)に注目してきてい
ます。リメイクというようです。

安武松太郎先生が教えられた、そ
の「ご恩」(天地の「大恩」は、天地の神様
に対する信心のない人(世の中)から
みれば、受けてあたり前であるのが
あたり前です。

そのため、失ってみなければわか
らないことが多く、みえてこないこ
との多いのです。

あることがあたり前となりがち
な、親の愛・社会や人の恩恵・私
ちが生かされている生命のみなも
とというようなものです。

しかし、そういうご恩が「わか
つた」「知った」からといって、ご恩に
報いる生き方が身につき、できるよ
うになる、人にも伝え教えることが
できるようになったとはいえませ
ん。

安武松太郎先生から矢野クラ刀
自が、ほんとうの信心生活ができる
ようになったとみなされるまで、三
十三才のご大患はあくまでもきつ
けのひとつで、それから十年以上も
熱烈な信心のご修行・稽古を重ね
られておられます。

その結果、矢野クラ刀自のご信心
は、「自分中心」の信心から「親神様
中心」の信心へ、「親神様を（おかげ
を受ける）道具に使う」信心から「親
神様が助かられる」信心へ、「おかげ
（自分のためのおかげ）」を信する信
心から「親神様（そこに）こもる」神
慮（「を信する信心へと変わって行か
れます」。

そのところでは『安武松太郎師教

話集第十一集』にくわしく記され
ています。

また「親神様に喜んでいただくこ
とは、まずお取次下さる親先生に喜
んでいただくことである」と、世の
中の順序と道理に添った信心の道の
たどられた、その跡が『私のいた
だく 安武松太郎師』につづられていま
す。

そこに記されるようにして真実
「神も助かり氏子も立ち行く」ご信
心への道をたどってあります。

そのあゆみ方の、確かな手がかり
足がかりとなるよう、遣された「恩
師のご信心の一端」を、ポイントを
つかんで読み重ねていただきたいも
のです。

すると「信心する」が「信心にな
る」、「拝む」が「拝める」といつた
み教えがわかるようになってくると
思われます。

ともどもに「これから、これから」
と信心のあゆみを進めさせていた
きましよう。

（加治木教会長）

出水教会 布教八十五年 記念大祭に参拝

五月五日（祝）、さわやかな風薫る
子どもの日、出水教会では、天地金
乃神大祭並びに、布教八十五年記念
大祭が仕えられました。

前教会長嶋田邦雄先生が昨年十
月にお国替えされて、奥様の喜代子
先生が教会長として初めての記念祭
をお迎えされましたが、先生邦雄
師（が担われておられた全般の御用
を受け継がれ、緊張感がある中にも
和やかでうるわしい記念祭でした。

ご教話は大口教会長安武秀信先
生で、四代金光様の「あなたの都合
に神様を合わせるではありません
神様の都合にあわせるのです」との
お言葉がきつかけとなり、大口教会
で布教の御用に邁進して行かれたご
体験をお話しにられました。

さらに、ご祭典・ご教話後には、



すばらしい
日本舞踊が
披露されま
した。（F）

記念祭奉迎

感話発表 より

テーマ「原点・あゆみ・これから」
記念祭に向けて、信心の原点に立ち返り
明るく元気な信心に、改め深め進めよう

瀬尾田鶴子氏

平成二十三年十一月十日

入信

入信は昭和三十九年で、榎原ヤオ



瀬尾 田鶴子 氏

さんからの
お導きです。
入信当初の
ことは前
にお話させ
てください
したので

(布教四十年の記念誌にも掲載)今日
は東京へ行くところからお話しさせ
ていただきます。

信心させていただきまして、主人
が亡くなり、やっと教会にお参り
できるようになりました、それから
もいろんなことがありまして、東京
に行かせていただくことになり、い
ろんなことを手紙で加治木教会の親

先生(矢野政美親先生)にお取次させ
ていただきながら、早稲田教会にお
参りさせていただくようになりまし
た。

それからも、様々なことがありま
して、今日は東京に行かせていただ
いて、おかげ頂いたことやお試し
いただいたことがたくさんありますの
で、それをお話しさせていただきます
す。

東京へ行くきっかけ

長女が市役所に働いていました。
戦後鹿児島市内で一番に新しく建築
ができたのは市役所でした。その市
役所の建築に、東京から職人さん方
が来られていました。それがご縁で、
その中の方と長女が結婚すること
なり、東京へ行くことになりました。
その当時は、東京は「生き馬の目
を抜く」というところ、お嫁にや
りたくはありませんでした。

そのことを親先生にお届け申し
上げますと、「お嫁にやりなさい」と
いうことでした。そういうことでお
嫁にやったことでした。

私は大胆で、そこが悪いところで

もありませんが…。

教会の先生となると、怖いとい
うか、それよりも大好きになります。
先生を大好きになります。

それは、金光様の代理として御用
して下さつてあるのですから、先生
を好きになることが神様を好きにな
ること、そのようにしてずっとお
かげを蒙らせていただいていたとき
長女が東京に嫁に行くとき「そん
なところにやらんといかんでしょう
か」と尋ねました。

すると親先生は「それは神様のお
かげ、ご縁だ」と仰いました。そう
して東京へ、嫁いで行きました。
すると、弟たちが高校を卒業しま
すと、鹿児島には仕事が少ないので、
次々と姉が呼んでもくれませんでした
姉のいる東京へ行きました。

朝参りの始まり

そうして、その後のことになりま
すが、長男を事故で亡くしました。
それで大変なこともありましたが、
そこはお話が長くなりますので、今
日は省かせていただきます。

その後、次女の主人が競輪・競馬

にはまってしまいました。遊ぶには東京は良いところですよ。給料もぜんぜん生活費に入らなくなりました。

そんな中に、次女は産後の肥立ちで弛緩(しかん)になりました。

弛緩はまるで癩癩(てんかん)のような病気です。弛緩に良い薬がありました。それが合わないもので、お医者さんもお手上げでした。

朝参りで始まるおかげ

そのため、目の前は真つ暗でした。そうして、先生にもお伺いしまして、一念発起して朝参りを始めました。

次女はそのような具合で休んでいました。小さな子どももいますので、私も働きに行かなければ生活ができませんでした。亡くなった主人は国鉄に勤めていましたので、わずかに恩給がありました。生活は大変でした。

その頃は、一生けんめいお参りをして、神様にお継りするしかありませんでした。

二週間ほど朝参りを続けていますと少しずつ病状が良くなり、一ヶ月ほどすると完全に良くなりました。

それでおかげを蒙らせていただきまして、娘も働けるようになりました。

その頃、次男の郁夫が働いていた内装会社の社長さんが「事務員が欲しい」ということでしたので、次女はそこで働かせていただくことになりました。

苦しい大変なこともありましたが、朝参りをさせていたでいて信心させていたでいていきますと、不思議と私はおかげになって行きました。そういうことで私は今日まで来れます。

次女は、鹿児島にいた若い頃に、始良町の農協に勤めていたので、すぐに事務に使っていただくことになりました。

食堂を始める

そうして、何年か経つうちに、私もどもが住んでいました家の向かいのお館屋さんが「居ぬきで店をしてくれる人はいないかな」という話しを知人が持つてこられました。

すると、元気になった次女が「お母さん私たちがやらしてもらおう

か」と言い出しました。

孫も少し大きくなっていましたので次女は「お母さんが昼間に仕込んでいてくれたら、私が事務所から帰ってきてから一緒にお母さんとしてみてはどうか」ということでした。

そのことも政美親先生に電話してお取次頂きお伺いいたしますと「させていだきなさい」ということで始めさせていただきました。

そうして、政美親先生に「土の香」という屋号を付けていただきました。そのようにして始めたのですが、

郁雄が働いています会社の社長には従業員が八十人くらいいました。

その社長のお兄さんが、従業員の食事をはじめるいろいろなお世話をしてありました。魚釣りに行かれて船から落ちて突然亡くなりました。

そのため、社長から「明日から職人のために食堂をしてくれないか。お金も私から全部払うから」ということで心配もなく職人さんのための食堂をすることになりました。

次女の具合が悪かった頃は、銭湯

に行くお金にも困るくらいでしたが、一念発起して朝参りをして信心をさせていただくうちに、だんだんおかげを蒙らせていただくこととなり、楽しく食事を頂かせていただくことができるようになって行きました。そうするうちに今度は、郁雄が勤めていました会社が倒産しました。そのときは途方に暮れました。しかし、神様のおかげで郁雄が二十九才で独立させていただきました。職人さんが四・五人来て働いてくれました。

すると、そのうちに食堂の持ち主の方が「店を買って欲しい」と言っていてくれました。

買うお金のない中に
下が店舗で二階に四畳半が四部屋ありました。その頃は、四畳半の部屋を借りる独身の人はいませんでした。

しかし家主の方が「買って欲しい」ということでした。

しかし、買うにはお金はないし、ここを出て行くわけにもいかないの
で「教会にお届けしてみようか」と

いうことを話しました。

すると次女たちは「そんなおかしなことは教会で話さないで、お金の足りない話しなんか。お金もないのに先生が買いなさいと言われたらどうするの、お母さんがお金はありませんと答えたら、瀬尾さんはちよつと馬鹿じゃないかと思われるわよ、だから話してはダメ…」ということでした。



感話発表(月例祭後)

11月	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん
12月	伊藤 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん
1月	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん
2月	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん
3月	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん
4月	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん	瀬尾 文枝さん

そのため、教会(早稲田教会)ではそのことは先生にも申し上げませんでした。ですが、教会には毎日お参りしていましたから、話してみたい気持ちはありました。

するとある日、先生(宮内清先生)が「瀬尾さん今日は寒いからお茶でも飲んで帰りなさい」と言われました。

そうしてお茶を飲みながらいつの間にか、お金もない中に店を買ってくれと言われている話しをしました。

「先生、これはただの話です。先立つものがありませんからお届けではありません」と言いますと、宮内先生は「瀬尾さん、あんたはお金を作ったことがありますか」と言われました。

「お金のやりくりはしますが作ったりはしません」と言いますと、「子どもが何か買ってくれと言うのに、親が負けるということがあるだろう、それと一緒に」と言われます。

「先生、それには私はどうしたらいいのですか」と訪ねますと、「自分

で考えなさい」と言われました。

「お金を借りませんか？」

そうして悶々として、毎日お参りをしてお届けをしてお願ひして家に帰っていました。すると、そのようなときに、家にいつも来られる銀行員さんが来てありまして、「瀬尾さんお金を借りませんか」と、夢のような話です。

「あなた今何って言った？」と尋ねますと、「お金を借りませんか」と言われます。それで、家の中に入って、「ほんとに貸すんですか、私の方には担保もなにもないのに」と尋ねました。

その頃、百万円まではありませんでしたが、郁雄が定期預金をしているのがありました。それを担保に一千二百円を貸してもらいました。それで家と土地を買わせてもらいました。

いろいろ困ったことがあります。が、次にはそのようなおかげがあるというようなことです。おかげ泥棒のようにおかげを蒙らせていただいています。

姉弟を助ける御用

それからもやっけて行けるようになりしました。またほかに詳しいお話をしますと長くなりますので、次は弟（堀元 聡）が相談してきたところへ飛びますが：

鹿児島にいました弟が「お姉さん助けて」と言ってきました。どうしたのかと言いますと、嫁が急死して長男が七才で次男が五才でした。

弟は外国航路の船に乗らなければならぬということ、弟の家を助けることになりました。

そうして、また東京に帰ると、こんどは妹が「助けて」と言ってきました。妹の主人は、志布志にコンビナートができる前に土地を買い、それが後に高く売れると思っていたところ、コンビナートの計画に掛かりませんでした。

そのため、そこで葡萄園をしました。その頃妹はまだ始良町の役場に勤めていまして「あと半年働けば、退職金があたり前に出るからそれまで助けてくれ」と言われ、葡萄園を助けに行きました。

また、母が高齢となって「お世話に来てくれ」と言ってきた助けに行ったこともあり、姉弟を助けに四回戻ってきました。

「お試し、お気付け」

義弟の葡萄園から東京に帰るとき、きれいな葡萄を箱に詰めてもらって、帰りに教会にお参りして神様にお供えさせていただこうと思っていました。羽田空港からモノレール



に乗って浜松町に着き、早稲田教会は近いから帰りにお参りさせていただこうと思っていました。

しかし、ふと、明日でいいか、どうせ明日お参りするから、疲れもしているから……」と思つて綾瀬の駅まで帰ってきました。駅の公衆電話から家に「荷物を取りにきて」と電話をしました。

すると、その公衆電話のところに財布を忘れてしまったのです。その財布の中には、義弟からもらったお金と、妹が帰りがけに旦那に黙って五万円ポケットに入れてくれていたお金を入れていました。

お試しだと思いました。神様に向かっていた心が、嘘を言ったとでもいうのでしょうか、心が弛んでしまっていたのだと思いました。

後で探しに行きましたがありませんでした。お試しを受けたと思いました。

「お試し、お気付け」その二
また一度はこんなこともありました。綾瀬の町で買い物に行っていますと、人がたくさんいるところがありまして、私も入ってみますと、いろんな日用品が安く、店じまいセールでした。

私もそこで品物をいくつか買って帰りました。帰り着いて見てみると、品物がたくさんあり、自分が買っていないものまで入っていることがわかりました。

お金を払っていない分をまたそ

の店まで持って行きました。するとお店の方が「それは親切に」と言っていて、一つ下さいました。

そうして帰っていますと、風の強い日で、道端に何かチラチラしているものが落ちており、お金のようだったので拾ってみると三千元でした。警察に届けなくても三千元で済ましたけど。神様から教えられた気がしました。

「お試し、お気付け」その三
また、郁雄が「日曜だから一緒にお参りに行こう」と言いますから、そんなに行こうね」と答えますと、「ちよつと、ゴルフの打ちっぱなしに入ってくるから待ってて…」と言って出て行きました。

ほんとうは、お参りしたくないものでゴルフの打ちっぱなしに行っているわけです。何時間たっても帰ってこないのです。すると、事故をしていました。

うそをついて私を言はそうと思っているのでしようが、十字路のところまで単車がぶつかってきてこちらは何も悪くなかったのですがそんな

ことがありました。

「お試し、お気付け」その四

また、早稲田教会の親先生が白衣を縫ってくれと頼まりました。二月に頼まれまして、「先生、今少し忙しいのですぐにはできませんが」と申し上げますと

「五月の大祭に間に合えばいいんだから」と申されますので、「それならば」と受けて帰りました。



家に帰り着くと、働きたいと言う職人さんが三人来ていました。家も買わせていただいて、一部屋空いていましたから、そこに入ってもらおうと思いつけることになり、急に忙しくなりました。

そんなとき、ひよつと「こんなに忙しくなつてしまい、白衣を縫えるかな、請け負わなければ良かった」と、思ったとき、十三段ある階段を

上から転げ落ちてしまいました。

「金光様、金光様」と言いながら転げ落ちました。階段のすぐ下の玄関が観音開きで開けてありましたので良かったのですが、それが閉まっていたらむち打ち症が大けがをすることだったと思います。

しかし、玄関が開けてありましたので、外まで転げて出てしまい、気を失ってしまいました。

そんなときにはいつも娘たちに、お神酒様とか御神水を吹いていましたので、郁雄が吹きかけてくれて意識が戻りました。

それから娘たちが「病院に行かないとだめだよ」と言われ、病院に行きました。

病院に行きますと先生は「ほんとうに落ちたのですか」と言われ、指を少し挫いたくらいで、ほかには悪いところはどこもありませんでした。

お試しというか、お気付けでした。「仙寿の里温泉」のきつかけ

加治木教会の五十年記念祭に帰らせていただいていたときのことですが、早稲田教会で習った花笠音頭

を教えないといかなかったもので、少し早めに帰ってきていました。五月二十日が記念祭で、二十九日に東京へ戻るようにしていました。



三女もこちらに来ていましたので、「私は三十日に帰るから、お母さんも三十日にして、一緒に帰ろう」と言われそうすることにしました。

すると、二十九日の晩に仙寿の里温泉を始めて間もない義弟(須藤実

行)が急死したのです。

急死したことを聞いたときは、妹だと思いました。少し前に血圧で倒れていましたので、行ってみると旦那の方でした。もうすぐちようど十年になります。

まさか私が、仙寿の里温泉をさせてもらうことなど考えてもいませんでしたが、妹は体が不自由になって一人では歩けないようになっており、社長の本人がいないので、私は妹の面倒を見て、弟(堀元聡)嬢婿が手伝いに来てくれました。すると、先々のことを考えてのことでしょうが、何ヶ月か経つ間に温泉を売るような段取りになっていました。

しかし、妹はどうしても売りましたが、透析が始まりました。けっきょく、妹を見るのは私となりました。

だんだんと妹は体が不自由になり、とうとう入院することになり、私が一人で温泉をすることになりました。あんな山の中で一人では何ればならなくなり、温泉のことは何にもわからないで、ほんとに大変な

ことばかりでした。
今考えてみますと、ほんとうに神様(信心)がなかつたらやれませんでした。

それから十年が経ちました。私も九十才になり、東京に帰る話が出てきております。どこにいましても神様のふところ、おかげを蒙らせていただいております。

これから

これからは、今もいろんな問題をかかえさせていただいていただいています。加治木の先生は「郁雄さんもお母さんのように、早稲田教会で信徒総代の御用ができていただけるように、信心のお育てをおかげをいただかねばなりません」と仰います。

いろんな問題を通し、息子の郁雄が信心のお育てをいただき、「信心目標」にあるように「信心の継承」のおかげを蒙らせていただかねばならないと思います。
(おわり)

東日本大震災

「復興支援団」

参加者募集中!

「鹿児島地方教会連合会 社会活動委員会」では、金光教少年少女会連合本部が実施しています「復興支援団」の支援活動に、人員を募集し参加させていただく予定を立てておられます。

この支援活動は準備を整えてご豊地(金光)まで行けば、マイクローバスで石巻市内の支援団宿营地まで(マイクローバス費用少年少女会連合本部負担)連れて行って下さいます。「社会活動委員会」から、予算を立ててご豊地(金光)までの旅費半額ほど(連合会内の支援金箱での支援金収集の額で増額あり)を支援する予定です。

「金光出発7月23日」金光帰着8月2日」第12期の復興支援活動に参加させていただく予定です。

詳しい準備品、対象資格、日時などは、鹿児島地方教会連合会のHP

「南光」(ブログ)に掲載致してありますのでご覧下さい。

鹿児島地方教会連合会 社会活動委員会 「東日本大震災」義援金・支援活動への協力をお願い申し上げます。

あしあと

加治木教会行事記録

5月

- 1(日) 報徳月例祭 10時半
- 3(祝) 東郷教会勸教五年祭
- 5(祝) 西鹿児島教会御大祭12時
- 5(祝) 出水教会布教85年記念祭
- 8(日) 上荒田教会御大祭 11時
- 9月 齋掃御用 10時
- 10(火) 生神光月例祭 10時半
- 12(木) (連)布教協議会勸教10時半
- 13(金) 須藤家(仙寿)の里温泉豊祭
- 14(土) 多良木教会御大祭 11時
- 15(日) 鹿児島教会御大祭 11時
- " 琴練習 13時半
- 21(土) 齋掃御用 10時
- " バンド練習 20時
- 22(日) 月例祭・共励会 13時半
- 23(月) 青年会 20時
- 28(土) 御用奉仕
- 29(日) 加治木教会布教六十年記念大祭
- 31(水) 齋掃御用 10時

少年少女全国大会に向け7月末まで

まごころ運動

に取り組みましょう。

平和の折りづる

※古切手・古カード

えんぴつ(新)

を集めます。



▼換金後、海外の恵まれない子どもたちへ送られます。

使用済み切手収集についての

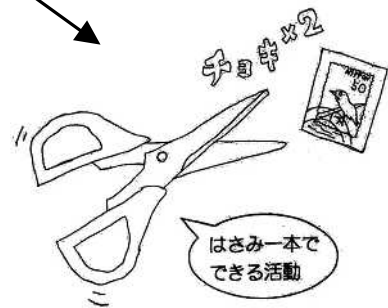
「お願い」

*切手ははがさないで、以下の要領で切り取ってください。

*切手の周囲を5mm程度あけて切り取ってください。

*枚数を明記してお届けください。

*外国切手や台紙からはがした切手がある場合は別にしてお届けください。

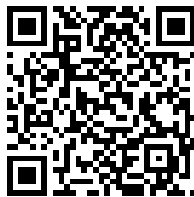


使用済み切手の収集は少年少女全国大会「まごころ運動」の取り組みのひとつです。

※教会行事予定表やお知らせなどのQRコードです。ご利用下さい。

行事予定表

教会ブログ
「あしあと」



ご霊神様のお立日

六月

平地正巳之霊神(↑日)昭和20年

前田 豊之霊神(6日)昭和20年

星原雅志之霊神(11日)昭和56年

最勝寺ヒサ之霊神(11日)平成11年

大重為光之霊神(20日)平成18年

三反クニ子之霊神(24日)昭和21年

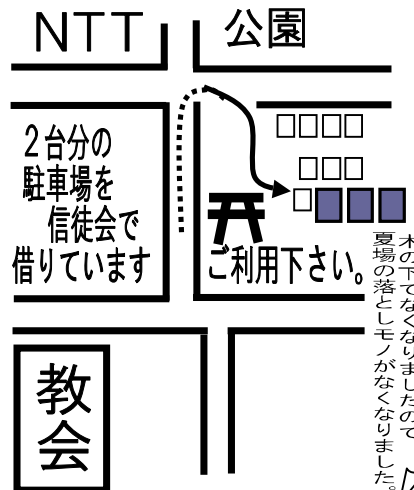
平地フチエ之霊神(25日)昭和18年

安武シゲ清和大刀自之霊神(26日)昭和32年

前田賢二之霊神(27日)平成3年

本中野米子之霊神(30日)昭和62年

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。



六月十日(金) 十時半より

月例祭に併せて
加治木教会

布教記念祭 奉仕

※祭典後、教話。

布教記念日のお祭りです。

六月十九日(日) 十時〜十五時半
加治木教会出発 九時

連合会主催

信徒部研修会

場所 勤労者交流センター(ダイエー7F)

六月三十日(木) 十時半より

上半期感謝祭 奉仕

※感謝祭お届け用紙、ご記入の上御結界へお届け下さい。

六月五日(日) 十三時〜十六時

上荒田教会にて

典楽講習会

楽器・楽譜持参、参加費無料。

教会行事

6月

- 1(水) 報徳月例祭 10時半
 - 3(金) 親教会 記念祭御礼参拝
 - 5(日) 典楽講習会(上荒田教会) 13時
 - 9(木) 斎掃御用 10時
 - 10(金) 生神金光 大神様 月例祭 10時半
 - 併せて 布教記念祭
 - 12(日) 御本部教団独立記念祭(参拝できる 否かは未定)
 - 14(火) 若婦人会 13時半
 - 16(木) 了 17(金)
 - 教区教会長教師研修会
 - 19(日) 連信徒部研修会 勤労センター(10時)
 - 21(火) 斎掃御用 10時
 - 22(水) 月例祭引き継ぎ共励会 13時半
 - ” 青年会 20時
 - 26(日) 了 27(月)
 - 甘木親教会教師婦人部会
 - 29(水) 斎掃御用 10時
 - 30(木) 上半期感謝祭 10時半
- 少年少女会は未定ですが、少年少女全国大会出品作品作り、ひつとへバンドの活動を予定しています。
少年少女会、青年会、若婦人会は、都合により日程を変更することがあります。随時連絡します
のごお気を(げ)下さい。

7月

- 1(金) 報徳月例祭 10時半
- 3(日) 親教会参拝日(参拝できる 否かは未定)
- 9(土) 斎掃御用 10時
- 10(日) 生神金光 大神様 月例祭 10時半
- 13(水) 若婦人会 13時半
- 16(土) 甘木親教会 教師研修会
- 17(日) 甘木親教会 祈願祭
- 21(木) 斎掃御用 10時
- 22(金) 月例祭共励会 13時半
- ” 青年会 20時
- 31(日) 斎掃御用 10時

ひつとへバンド練習会

(連合会) 場所 鹿兒島教会
とき 随時連絡

加治木教会 バンド練習会

とき 随時連絡

少年少女会連合本部で「東日本大震災」復興支援奉仕者募集中。五月〜七月、一期十日ほど。出発地、ご本部。宿営地は、石巻市。詳細は教会まで。